



2026年7月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年3月12日

上場取引所 東

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社
コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員
コーポレートコミュニケーション本部長 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020
半期報告書提出予定日 2026年3月12日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年7月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年8月1日～2026年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年7月期中間期	7,342	△13.9	626	△36.0	676	△30.3	445	△23.4
2025年7月期中間期	8,528	△19.9	977	—	970	—	581	—

(注) 包括利益 2026年7月期中間期 429百万円 (△26.1%) 2025年7月期中間期 580百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年7月期中間期	51.08	51.04
2025年7月期中間期	66.67	66.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年7月期中間期	10,488	7,048	67.0
2025年7月期	10,140	6,610	65.1

(参考) 自己資本 2026年7月期中間期 7,027百万円 2025年7月期 6,598百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年7月期	—	0.00	—	—	—
2026年7月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年7月期の連結業績予想（2025年8月1日～2026年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,500	2.1	300	△51.4	300	△50.0	300	△36.4	34.40

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年7月期中間期	8,720,534株	2025年7月期	8,720,534株
2026年7月期中間期	155株	2025年7月期	155株
2026年7月期中間期	8,720,379株	2025年7月期中間期	8,720,379株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は緩やかな回復が続きました。良好な雇用・所得環境を支えに個人消費も緩やかに回復しています。国内化粧品市場は、コロナ後の回復が一段落しているものの、個人消費の回復や円安によるインバウンド需要の増加により底堅い推移となっています。

こうした状況の下、当社グループは、アンチエイジング事業においてはブランドマネジメントと各チャネルとの協働を更に強化し売上の底打ちを目指すとともに、リカバリー事業においては、パイオニアとして成長市場における更なる事業拡大を目指しております。

当中間連結会計期間における売上高は、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸ばしたものの、当社で行っているアンチエイジング事業が減収となり、全体では7,342百万円(前年同期比13.9%減)となりました。一方、営業利益は、アンチエイジング事業における新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったこと等から626百万円(前年同期比36.0%減)となり、経常利益は676百万円(前年同期比30.3%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は445百万円(前年同期比23.4%減)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

(単位：百万円)

	2025年7月期 中間連結会計期間	2026年7月期 中間連結会計期間	前年同期比 (%)
売上高	7,012	5,544	△20.9
営業利益	794	689	△13.2

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、5,544百万円(前年同期比20.9%減)となりました。

チャネル別では、リニューアルした「デュオ」の販売が堅調に推移している卸売販売の売上高が前年同期並みとなったものの、新規獲得の広告効率の改善が見られない通信販売の売上高は前年同期実績を下回りました。

通信販売は、未トライアル層へのリーチを強化し新規獲得を図るとともに、顧客単価向上・クロスセル促進に向けた新商品・限定品の投入、CRM施策の更なる拡充に努めています。当中間連結会計期間においては、定期顧客の継続率向上を促進するためのプロモーション、「デュオ」のクレンジングバームのミニサイズを活用した通販新規獲得トライアルキャンペーン、スキンケア商品3品をセットにした通販新規獲得トライアルセットオファー等を展開し一定の成果を挙げましたが、新規獲得の減少を補うには至らず売上の減少が続いています。

卸売販売は、卸売販売専用新ブランドの育成、卸売先企業との連携進化による成長力の獲得、ECモール事業の強化に努めています。当中間連結会計期間においては、「デュオ」の「ザ クレンジングバーム」シリーズ5種の全面リニューアル後、「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」の@cosmeベストコスメアワード2025上半期新作ベストコスメ ベストクレンジング1位獲得を契機とした卸売先企業との連携によるプロモーションを継続的に展開した結果、店頭での販売が好調に推移し、売上は前年同期並みとなりました。

ブランド別の状況は次の通りです。

「デュオ」ブランドは、「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」が@cosmeクチコミランキング クレンジングバーム部門、その他クレンジング部門で1位(*1)を維持しており、SNS媒体を通じた発信や美容家とのタイアップ企画を通じた販売促進等を展開しています。卸売販売事業におけるPOSは、リニューアル後、対前年を上回る水準で推移しており、ECモールにおける販売も前年を上回っています。通販事業における新規獲得では、ミニサイズのトライアル獲得やスキンケア商品をセットにしたトライアルセットオファーを実施し、デュオを未体験のお客様にデュオの良さを知って頂く機会を提供しています。また、2025年10月には株式会社パン・パシフィック・インターナショナル様との協働による限定品「デュオ ザ クレンジングバーム スクラブ ブラック」を、2026年1月には「デュオ」からの新ラインとして落とす美容液「デュオ クレンジングセラム ピール&ブースト」を本格発売しました。これらの新商品も加え、引き続き、ブランド価値を訴求し浸透を図るコミュニケーションやプロモーションを実行し、通信販売事業、卸売販売事業双方における「デュオ」の売上反転に注力してまいります。

「カナデル」ブランドは、オールインワン化粧品市場の競争激化が継続していますが、お客様とより深く、より長くおつきあい頂けるブランドへの進化を目指しています。

「クレイエンス」ブランドについては、3月5日に、大人の3大髪悩みを1本でまとめてケアする「クレイスパ カラーキープ&ダメージケアマスク」をリニューアル新発売いたしました。引き続き、商品改良・開発等に取り組み、総合ヘアケアブランドとしての育成を図ってまいります。

この他、卸売販売専用ブランドとして新たに投入したファスト美容医療発想を叶えるスキンケアブランド「ララスキン」、「リカバリー」をテーマにベネクスとクロスオーバーしているエイジングケアブランド「レインカ」、インナーケア事業のサプリメント「シントー リポソーム ビタミンC」や高濃度ビタミンCスキンケア「C+mania (シーマニア)」等のテストマーケティングも継続しております。

*1 @cosmeクチコミランキング クレンジングバーム部門、その他クレンジング部門、2月27日時点の週間ランキングで1位

営業利益

営業利益は、新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったことから、689百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

リカバリー事業

(単位：百万円)

	2025年7月期 中間連結会計期間	2026年7月期 中間連結会計期間	前年同期比 (%)
売上高	1,515	1,797	18.6
営業利益又は営業損失(△)	183	△63	—

売上高

売上高は、オンラインに加え百貨店などオフラインでの販売も着実に伸長し、中間連結会計期間の売上として過去最高の1,797百万円（前年同期比18.6%増）となりました。

営業損失

営業利益は、ブランド認知獲得や興味促進のためのテレビCMを含む広告宣伝費の投下や、来期以降の事業成長を見越した採用等の組織強化を継続したことから、63百万円の営業損失（前年同期は営業利益183百万円）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して347百万円増加し、10,488百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して369百万円増加し、8,442百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加607百万円、売掛金の減少238百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して21百万円減少し、2,045百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加2百万円、無形固定資産の減少18百万円及び投資その他の資産の減少5百万円によるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して90百万円減少し、3,440百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、18百万円減少し、2,978百万円となりました。これは主に、未払金の減少326百万円、短期借入金の増加320百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、71百万円減少し、461百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少43百万円によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して438百万円増加し、7,048百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益445百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は67.0%になりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、5,262百万円（前連結会計年度末比607百万円増）となりました。

また、当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動により獲得した資金は、428百万円（前年同期は1,390百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前中間純利益680百万円、売上債権の減少238百万円、支出の主な内訳は、未払金の減少345百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動により使用した資金は、98百万円（前年同期は178百万円の使用）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出41百万円、無形固定資産の取得による支出70百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動により獲得した資金は、261百万円（前年同期は665百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、短期借入金の増加320百万円、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出95百万円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年7月期の連結業績予想につきましては、2026年3月12日付「2026年7月期第2四半期（中間期）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」で公表したとおり、2025年9月11日に公表した予想から変更はありません。なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当中間連結会計期間 (2026年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,655	5,262
売掛金	1,421	1,182
製品	1,002	1,016
原材料及び貯蔵品	457	520
その他	535	459
流動資産合計	8,073	8,442
固定資産		
有形固定資産	553	555
無形固定資産		
のれん	310	289
その他	603	606
無形固定資産合計	914	895
投資その他の資産		
その他	637	635
貸倒引当金	△37	△41
投資その他の資産合計	599	594
固定資産合計	2,067	2,045
資産合計	10,140	10,488
負債の部		
流動負債		
買掛金	203	265
短期借入金	405	725
1年内返済予定の長期借入金	208	205
1年内償還予定の社債	26	30
未払金	794	468
未払法人税等	126	274
賞与引当金	78	71
契約損失引当金	25	—
その他	1,128	938
流動負債合計	2,997	2,978
固定負債		
社債	17	—
長期借入金	451	408
資産除去債務	14	14
その他	50	38
固定負債合計	533	461
負債合計	3,530	3,440
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351	50
資本剰余金	1,351	2,653
利益剰余金	3,876	4,322
自己株式	△1	△1
株主資本合計	6,578	7,023
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	19	3
その他の包括利益累計額合計	19	3
新株予約権	12	20
純資産合計	6,610	7,048
負債純資産合計	10,140	10,488

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2024年8月1日 至 2025年1月31日）	当中間連結会計期間 （自 2025年8月1日 至 2026年1月31日）
売上高	8,528	7,342
売上原価	1,751	1,625
売上総利益	6,776	5,716
販売費及び一般管理費	5,798	5,090
営業利益	977	626
営業外収益		
受取利息	0	4
保険解約返戻金	—	6
為替差益	1	45
雑収入	3	3
営業外収益合計	5	58
営業外費用		
支払利息	12	8
雑損失	0	0
営業外費用合計	12	8
経常利益	970	676
特別利益		
固定資産売却益	—	2
新株予約権戻入益	—	1
特別利益合計	—	3
特別損失		
固定資産除却損	2	—
特別損失合計	2	—
税金等調整前中間純利益	967	680
法人税等	343	235
過年度法人税等	43	—
中間純利益	581	445
親会社株主に帰属する中間純利益	581	445

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年1月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年1月31日)
中間純利益	581	445
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△0	△15
その他の包括利益合計	△0	△15
中間包括利益	580	429
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	580	429

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年1月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	967	680
減価償却費	123	126
のれん償却額	20	20
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△2
固定資産除却損	2	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△52	3
契約損失引当金の増減額(△は減少)	△281	△25
受取利息及び受取配当金	△0	△4
支払利息	12	8
売上債権の増減額(△は増加)	454	238
棚卸資産の増減額(△は増加)	△131	△76
仕入債務の増減額(△は減少)	69	62
未払金の増減額(△は減少)	△138	△345
未払費用の増減額(△は減少)	△66	34
前払費用の増減額(△は増加)	△106	2
その他	374	△189
小計	1,248	533
利息及び配当金の受取額	0	4
利息の支払額	△12	△8
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	197	△100
過年度法人税等の支払額	△43	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,390	428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△0	—
有形固定資産の取得による支出	△19	△41
無形固定資産の取得による支出	△94	△70
有形固定資産の売却による収入	—	3
貸付金の回収による収入	1	1
保証金の差入による支出	△0	△3
保険積立金の解約による収入	—	13
その他	△64	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△178	△98
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△408	320
長期借入れによる収入	—	50
長期借入金の返済による支出	△243	△95
社債の償還による支出	△13	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△665	261
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	547	607
現金及び現金同等物の期首残高	4,753	4,655
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,301	5,262

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年8月1日 至 2025年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	アンチ エイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,012	1,515	8,528	-	8,528
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,012	1,515	8,528	-	8,528
セグメント利益	794	183	977	-	977

(注) セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2025年8月1日 至 2026年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	アンチ エイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,544	1,797	7,342	-	7,342
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	5,544	1,797	7,342	-	7,342
セグメント利益又はセグメント損失(△)	689	△63	626	-	626

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年10月29日開催の株主総会の決議に基づき、2025年12月1日付で減資の効力が発生いたしました。

これにより、資本金が1,301百万円減少し、この減少額全額をその他資本剰余金へ振り替えております。

これらの結果、当中間連結会計期間末において、資本金が50百万円、資本剰余金が2,653百万円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。